

結成20周年
新たな大躍進
に向け出発!

月刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番
2000.5.11 No. 5131

表では大塚体制強化 裏では粉砕 やっぱり東労組は革マル!

自作自演の茶番 劇で大混乱!

この間革マルは、「葛西Ⅱ大塚体制の粉砕をめざして闘おう」「東会社の経営トップが葛西Ⅱ大塚体制で固められた」「これは東労組解体攻撃を本格的に開始する態勢が確立されたことを意味する」等主張する内容のビラを社宅などに配布している。これに対し東労組は、「革マル派から私たちの運動にとやかく言われる筋合いはない」とか、「革マル派によるビラまきや個別訪問は、組織混乱を狙ったものであり東労組への組織介入は絶対に許すことができない」などと一斉に騒ぎたてている。

言うまでもなくこの「対立劇」は完全な茶番である。東労組の表側と裏側は一八〇度違うのだ。だが、なぜこんな茶番劇が演じられるのか。その根底にあるのは、さし迫るJR東労組崩壊への恐怖だ。これは、JR東日本の革マル結託体制の崩壊を何とかくい止めたいという意図で企てられたものだが、こんなアクロバットがながる続けるわけはない。JR東労組のなかからは、混乱と矛盾がより一層ふきあげ、否定すればするほど、「東労組Ⅱ革マル」は誰の目にもあらわになり、そうなればなるほどさらに、革マルとは関係ない、関係ない、……と繰り返さざるを得ず、それがさらに混乱と矛盾を生みだすことになるだろう。

奇妙な「非難」

実際、革マルと東労組は、表向きビラなどで「非難」し合っているが、その内容は実に奇妙なものだ。

東労組が革マルを「非難」しているビラには、内容上の批判はゼロで、「個別訪問は組織混乱を狙っている」とか、「松崎会長を崇拜しているように押し出している」とか上つ面のことを言うだけで、内容上の批判は全くゼロであり、一体何を批判しているのか全くわからない。

一方革マルの側も、要するに、「JR総連のなかにも松崎会長の主張を広めない官僚的な役員がいる」というのが唯一の「批判」の内容であり、実際は、松崎を全面的賛美したり、JR総連がだした「新民主化同盟」に対する見解を、「行き先を照らさず、ただしつめるべき方向が示された」と賛美するなど、JR総連を誉め讃えている。「シニア協定」での全ての労働者に対する大裏切りなど、核心的な問題はひとこともふれないのだ。

しかも、革マルがまく情報で、これだけ「松崎さはすばらしいすばらしい」とやっているにも係わらず、当の松崎はこの間沈黙を決め込むばかりで、その下だけが「関係ない、関係ない、……」と繰り返すのだ。こんな奇妙なことはない。

言っていること
は全く同じ!

しかも、東労組と革マルが主張するその内容は、そっくり同じである。例えば次のとおりだ。

▼革マル

「三組合共同声明」は、JR東海社長葛西、ならびにそれらと結びついている特定の政治権力者の暗躍とけつして無関係ではない。新民主化同盟をうち砕け。

▼東労組

「三組合共同声明」は、権力者による「統一司令部」の指示に基づくものである。JR東海社長・葛西らに最後のあがきに他ならない。新民主化同盟を木っ端微塵に粉砕する。

▼革マル

いままた鉄道謀略連続的に仕掛けられてきている。このような鉄道謀略への階級的警戒心を研ぎすませよう。

▼東労組

平成の三鷹事件と極似、山手線で脱線転覆を狙う悪質な列車妨害に警戒しよう。緊張感をもって行動を。

幻想にすぎない東 労組・革マル

彼らの主張で唯一違うのは、革マルはそのビラで「葛西Ⅱ大塚体制を粉砕しよう」と言う一方で東労組は、「住田Ⅰ松田Ⅰ

大塚体制を強化しよう」としていることだけだ。

要するに、会社との結託関係だけを、唯一の拠り所として組織を維持している東労組にしてみれば、「大塚体制粉砕」だけは口が裂けても言えない、だから革マルに代弁させているだけのことだ。

しかし、大塚新社長体制は、明らかにJR総連・革マルとJR東日本の結託体制という、あまりに異様な在り方を権力側から清算するとともに、一〇四七名の解雇撤回闘争を先頭とした国鉄労働者の闘いを串刺しにしようという意図をもった体制だ。いくら会社にすがりつこうとしても幻想は幻想だ。松田は代表権もない会長であり、「住田Ⅰ松田Ⅰ大塚体制」などそもそも存在しようのないものだ。

今こそ決別を!

東労組は、一方ではこれまで以上に組合員を徹底的にしめあげ、他方会社には奴隷のような忠誠を誓い、これまでどおりの労使関係の維持を嘆願する方向を歩むしかないだろう。

しかし、それもはや限界だ。結局東労組は、今後もこれまで以上に組合員の権利や労働条件を犠牲にしつつ、矛盾を噴きだし、大混乱を極めていくことは間違いない。

今こそJR総連・革マルと決別しよう。職場から卑劣な差別・選別を根絶しよう。JRに労働者のための労働組合をつくりあげよう。